

# 釧路市の 不登校支援施設

令和3年1月

## はじめに

不登校支援の1つに、「支援施設を利用する」方法があります。施設を利用することで、子どもに新しい居場所ができたり、理解してくれる人ができたり、話を聞いてくれる人ができたりし、施設に毎日通えるようになる・学校に戻れるようになるなど、子どもの状態が良い方向に回復していくことがあります。しかし、「施設についてよくわからない」、「施設を利用することで親（教師）として失格なのではないか」等の理由から施設の利用するところまでつながらず、支援方法の1つを失ってしまうことがあるのも事実です。

本冊子は、支援施設の利用を強制するものではなく、施設はどのようなところなのか、どのような子どもが通っているのか等を一覧にすることで、施設について知ってもらいたいと考えて作成しました。本冊子をきっかけに不登校支援について、それに関わる民間施設について興味をもっていただけたら幸いです。

最後になりましたが、本冊子の作成及び卒業研究に当たり、貴重なお時間を割いていただいた支援施設の方々をはじめ、関係の皆さまに深く感謝申し上げます。

令和3年1月

# 目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

## 施設紹介

・ 釧路こども家庭支援センター・・・・・・・・・・・・ 3

・ スクールさぽーとネットワーク・・・・・・・・・・・・ 7

・ 一般社団法人なんらぼ・・・・・・・・・・・・・・ 11

保護者・教員・学生の方へ・・・・・・・・・・・・・・ 15

保護者の方へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

教員の方へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

学生の方へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

## 施設紹介

<b>釧路こども家庭支援センター</b>		所在地 〒085-0811 釧路市旭町 16 番 5 号
ホームページ : <a href="http://jiritsu-support.jp/child/index.html">http://jiritsu-support.jp/child/index.html</a>		
E-Mail : <a href="mailto:k-kodomo-katei-c@grape.plala.or.jp">k-kodomo-katei-c@grape.plala.or.jp</a>		
TEL : 0154-32-1150		FAX : 0154-22-2801
<b>代表者</b>	笠井 雄二	<b>施設の方針</b>
<b>設立</b>	2004 年 4 月	
<b>受け入れ可能校種</b>	小・中・高・特支 ※高校生は相談業務や心理的治療が必要な場合のみ可能 ※常時付き添いや介助が必要な場合は不可	
<b>運営日時</b>	・365 日 9:00~17:00 ・電話, FAX, メールは 365 日 24 時間可能	
<b>定員</b>	10 名	
<b>在籍者数</b>	20 名 (小・中学生各 10 名)	社会福祉法人釧路まりも学園の本体施設から分かれて運営している児童家庭支援センター。不登校支援も行っているが、それだけではなく、家庭への支援も行っている。ここの学習指導計画はなく、その日に来た子供の状態を見てその都度やることを決めていく。日々の記録は管理されており、年度末に 1 年間の記録を保護者と一緒に見る機会を設けている。釧路市教育委員会教育支援課のファーストステッププログラムの窓口であり、ここから適応指導教室の「ふれあい教室」に行くこともある。
<b>通所方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の送迎 ・児童生徒自身で通所</li> <li>・施設の送迎バス ※送迎バスは、車のない家庭等、やむを得ない場合のみ</li> </ul>	
<b>スタッフ</b>	常勤 4 名 〈所有資格等〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談員 (センター長含む) 3 名</li> <li>・里親支援専門相談員 1 名</li> </ul> 非常勤 3 名 <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理士 1 名</li> <li>・ファーストステッププログラム関係者 2 名</li> </ul>	
<b>学校との連携</b>	月に 1 度, 何日施設へ来たかなどの記録を教育委員会経由で学校に渡している。また, 教師が施設を訪問した際にその都度情報を交換している。	
<b>家庭との連携</b>	保護者が送迎に来た際や, 電話, 施設内の行事などで様子などをその都度伝える。また, 1 年間どんなことをしていたかを年度末に伝えている。	
<b>出席認定</b>	個人の記録を教育委員会に出しており, その分は全て出席扱いになっている。	
<b>支援内容</b>	以下の業務はすべて無償で行っている。	

	<p>〈①.来所方法〉 365 日開設, 9:00~17:00  →現在は利用者が定員を超えてしまっているため, 子ども毎に曜日を固定して対応している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家に引きこもり昼夜逆転してしまった子どもの生活リズムの改善</li> <li>・子どもたちがやりたいことをやる</li> <li>・社会見学, 遠足 (博物館, 遊学館, JR 乗車 等)</li> <li>・来所しているほかの子どもたちとの交流 (軽スポーツ, 卓上ゲームなど)</li> <li>・火曜日の 1 時間は勉強時間 (自由参加)</li> </ul> <p>〈②.家庭訪問〉 必要に応じて訪問する。要相談。  →不登校に限らず, 多様な相談を受けている。中々家から出られない子や, 子どもを養育しているが家からなかなか出られない保護者など来所が難しい場合に行く。子どもの様子を見たり, 保護者から子どもの様子を聞いたり, 保護者にも何か悩みや問題があれば保護者の状況はどうか等を見聞きする。</p> <p>〈③.電話相談〉 24 時間, 365 日受付可能  →親からの相談, 子どもからの相談, 地域の人からの相談, なんでも可能。育児のことや, 学校でのいじめ, 先生が苦手, ある家で子どもがずっと泣いているなどの相談を受けている。</p> <p>〈④.メール相談〉 24 時間, 365 日受付可能  →最近, 特に中学生以上の子どもからの相談が増えている。ただし, どの程度深刻なのか, 本人がどのような状況なのかが伝わりにくい, 何度もメールのやり取りをする必要があるなどの面から, 電話相談の方が望ましいとのことだった。相談内容は電話相談と同様。</p> <p>〈⑤.FAX 相談〉 24 時間, 365 日受付可能  →最近減りつつある。メールと同様に深刻さ等が伝わりにくいため, 電話相談の方が望ましい。相談内容は電話相談と同様。</p>
<b>社会的自立に向けた支援</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格や就職に関わるものはない。</li> <li>・どの高校に進学するか等, 進路面の支援はある。</li> </ul>

**施設設備**

相談室

[様子]

来所相談の際や，来所した子どもが1人で何かしたいときに使用。



多目的ホール

[様子]

バドミントンコート1面分の広さ。ここで運動したり，遊んだり，机を出して勉強したりする。



心理判定室

[様子]

箱庭療法や知能検査の道具（WISC-IV）がある。マジックミラーの部分があり，外からも中の様子が見られる。



その他の設備


- ・事務室…職員の方がいる。
- ・畑…夏に野菜作りをしている。
- ・他事業所…母子家庭等就業・自立支援センターのこと。子どもを待っている間に保護者の就業支援としてパソコン教室等を行っている。

<b>事例 (どのような子どもが通っているか)</b>	中学校に一度も行けていない子。中学校に上がった時の担任がちょうど大学院を卒業したばかりの先生で、毎月1回は施設に顔を出していた。最初は先生のことを拒否していたが、次第に先生のことを受け入れていき、会場には入れなかったが、親の車で卒業式を行うことができた。
---------------------------------	---




令和2年12月21日時点の情報です

<b>スクールさぽーとネットワーク</b>		所在地 〒085-0047 釧路市新川町1番7号 シッポファーレ内
Facebook : <a href="https://www.facebook.com/sukusapo">https://www.facebook.com/sukusapo</a>		
E-Mail : <a href="mailto:sukusapo946@yahoo.co.jp">sukusapo946@yahoo.co.jp</a>		
TEL : 0154-32-4080		FAX : -
<b>代表者</b>	酒田 浩之	<b>施設の方針</b>
<b>設立</b>	2002年	
<b>受け入れ 可能校種</b>	小・中・高・特支 ※他にも高校中退した人や 大人も可能	
<b>運営日時</b>	支援内容の欄を参照	
<b>定員</b>	10名程度	
<b>在籍者数</b>	14名(小:4名, 中:5名, 高: 3名, 19・20歳:各1名)	
<b>通所方法</b>	・保護者の送迎 ・児童生徒自身で通所	
<b>スタッフ</b>	8名 (所有資格等) 教員免許, 保育士, 心理士。また, 障がいについての研修を受けている。	
<b>学校との 連携</b>	教育委員会に向けて出す報告書と同じものを, 月に1度学校にも出している。	
<b>家庭との 連携</b>	教育委員会に向けて出す報告書と同じものを月に1度家庭にも出している。 また, 必要に応じて保護者の方とメール等でやり取りすることもある。	
<b>出席認定</b>	長期で利用している小・中学生はほとんど出席扱いになっている。	
<b>支援内容</b>	<p>〈①.フリースペースプログラム〉 実施日時: 月・火・木・金 (10:30~15:30) 料金: 8,000円/月 (不定期利用 700円/日) 昼食: 300円/1食 (弁当持参可能) 内容: 自由学習、作業学習、創作学習、交流学习、脳トレプログラム等</p> <p>〈②.学習サポートプログラム〉 実施日時: 火・木 (16:00~19:00) ※曜日、時間は相談に応じます。 料金: 1,400円/回 内容: 小学生 (算数、国語、進学準備プログラム)</p>	



	<p>※低学年は脳トレを中心としたプログラムです。 中学生（数学、国語、英語、受験プログラム等） ※高校生（受験、資格試験）は別途ご相談ください。</p> <p>〈③.特別プログラム〉 実施日時：土・日 ※曜日、時間はプログラムごとに異なります。 料金：1,400 円/回（① or ②の利用者は 500 円） 内容：コンピュータ（グラフィック、WEB） ギター、太鼓などの楽器演奏 水泳などのスポーツ 社会実習（マスコミ、料理、介護実習、ボランティア等） 英会話、ビジネススキル等の教養学習</p> <p>〈④.カウンセリングプログラム〉 実施日時：定期または随時（要予約） 料金：1,500 円/回（60～90 分） 内容：小学校低・中学年向け 小学校高学年以上向け 保護者のためのプログラム ※E メールでのカウンセリングは④を受けている方及び保護者の方は無料</p>
<p><b>社会的自立に向けた支援</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信制高校のサポート校になっており、その高校を勧めることもある。しかし、必ずではなく、その子に合ったものを勧めている。</li> <li>・代表者が「釧路商科専門学校」の理事をしているため、専門学校で行われる資格講座等を勧めることもある。</li> </ul>
<p><b>施設設備</b></p>	<p>学習室</p> <p>[様子] 勉強だけでなく、絵を描く時にも使っているスペース。パソコン部屋と繋がっており、簡単な壁で仕切られているため、すぐに人を呼ぶことも可能。自分で頼めば勉強をしえてもらうことも可能。職員の研修をするときにも使用。</p> 

## スクールさぼーとネットワーク

	<p>パソコン部屋          [様子] 作業所の方が、主にホームページ作成やイラストを描く作業をしている部屋。頼めばパソコンを使うことも可能。</p> <p>ゲーム部屋          [様子] 数人でテレビゲームをしたり、ギターを弾いたりする部屋。基本的に子どもたちが主体で使う。</p> <p>休憩室          [様子] 休んだり、カウンセリングをしたりする部屋。頼めば、落ち着くためにアロママッサージもしてもらえる。</p> <p>その他の設備          ・作業部屋…作業所の方が売り物を袋詰めする部屋。フリースクール生も手伝うことがある。          ・ショップ…手作り雑貨等を販売しているところ。フリースクール生も手伝うことがある。          ・カフェ…一般の方も利用できるカフェ。フリースクール生も手伝うことがある。          ・厨房…カフェなどの食事を作るところ。フリースクール生も手伝うことがある。</p>	  
<p><b>事例</b>  <b>(どのような子ども)</b></p>	<p>〈開設当初〉          ・いじめにより不登校になった子ども、特に中学生が多く来ていた。いじめが原因の子たちは、施設に来ると「自分の居場所がある」と認識し、元気に</p>	

<b>が通っているか)</b>	<p>なっていた。</p> <p>〈近年の状況〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教師との関係が悪化して高校を中退した子どもが来た際、通信制の高校に切り替えて、施設に来て課題に取り組み、課題が終われば遊んで帰るということが続け、高校2年生の年齢で通信制高校を卒業した。その後1年間アルバイトをし、大学に入学した。</li><li>・学校に通えない理由がない子、先生が苦手な子が多く来ている。そういった子は施設に来ると、施設に楽しさを見出し、自分で決めた回数だけ施設には来ることができるようになった。</li></ul>
-----------------	--

令和2年12月18日時点の情報です

<b>一般社団法人なんらぼ</b>		所在地 〒085-0043 釧路市喜多町 8 番 2 号
ホームページ : <a href="http://nan-lab.com/">http://nan-lab.com/</a>		
Twitter : <a href="https://twitter.com/nanlab_kushiro">https://twitter.com/nanlab_kushiro</a> (@nanlab_kushiro)		
Facebook : <a href="https://www.facebook.com/profile.php?id=100003202795924">https://www.facebook.com/profile.php?id=100003202795924</a>		
YouTube : <a href="https://www.youtube.com/channel/UCgr3HeOYFHPdcX_g3rpD5Ag">https://www.youtube.com/channel/UCgr3HeOYFHPdcX_g3rpD5Ag</a>		
E-Mail : <a href="mailto:info@nan-lab.com">info@nan-lab.com</a>		
TEL : 0154-65-1304		FAX : 0154-65-1305
<b>代表者</b>	山家 由三	<b>施設の方針</b>
<b>設立</b>	2020 年 4 月	
<b>受け入れ 可能校種</b>	小・中・高・特支 ※大学生, 大人の方も利用可能 ※常時付き添いや介助が 必要な場合は不可	
<b>運営日時</b>	・月曜日 13:00~16:30 (無料開放)  ・火~土曜日 10:30~18:30  ・日曜日…定休日	
<b>定員</b>	10 名程度	
<b>在籍者数</b>	定期利用者 4 名 (小・中学生 : 各 2 名)  不定期利用者 4 名 (小・高校生 : 各 2 名)	
<b>通所方法</b>	・保護者の送迎 ・児童生徒自身で通所	
<b>スタッフ</b>	常勤 2 名 (所有資格等) 社会福祉士, プログラマー  非常勤数名 ※大人の利用者等から保育士や教員免許を持っている人を, 非常勤職員として必要に応じて外注している。	
<b>学校との</b>	学校側から求められた際に連絡を取っている。「学校と連絡を取り合ってい	

<b>連携</b>	る」ことを嫌う子どももいるため、施設側からはあまり連絡を取らない。
<b>家庭との連携</b>	保護者が送迎に来た際やメールなどで、必要に応じてその都度連絡を取っている。
<b>出席認定</b>	現時点で、定期利用の中学生は全員出席認定を受けている。
<b>支援内容</b>	<p>〈①.不登校・ひきこもりに関する訪問支援〉  費用：一回 5000 円（電話相談は無料）  内容：家庭からの要望を受けてから行われる。</p> <p>〈②.不登校児童の日中の受け入れ〉  費用：一回 2000 円，月額 20000 円（通い放題）  ※母子父子家庭割引で半額に  ※きょうだい割引で 2 人目以降半額に  ※火曜日から土曜日の 10：30～18：30  ※月曜日は 13：00～16：30 で無料開放している  内容：自分がやりたいことをやる。職員に相談したら準備もしてくれる。必要に応じては外部講師を外注することもある。</p> <p>〈③.プログラミング教室〉  費用：月額 19800 円（月 4 回）  ※入会金・教材費は無料  ※1 コマ最大 2 名受講可能  ※親子参加可能で親子割あり  内容：興味や習熟度に合わせた個別指導のプログラミング教室。扱う内容はドローン，マイクラ，M-bot 等。上級者向けコースもあり。</p> <p>〈④.大人向けプログラミング教室〉  費用：一回 2000 円  ※時間，曜日は応相談  ※釧路商科専門学校で開催</p> <p>〈⑤.シェア工房〉  費用：マネタイズ支援により成功報酬 ※マネタイズ…技術や知識などを収益化すること  （マネタイズ額の 20%内消費税 10%含）</p>
<b>社会的自立に向けた支援</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人の好きなこと，興味のあること，特技などを活かして収入につなげる働きかけをしている。</li> <li>・高校生にはアルバイトを紹介している。</li> </ul>

**施設設備**

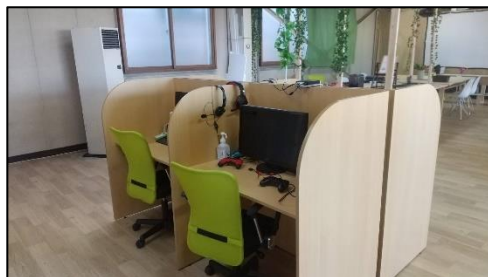
フリースペース

〔様子〕 自由にくつろぎたい人向けの場所。場合によってはスクリーンで動画等を鑑賞することも可能。プログラミング教室もここで開催される。



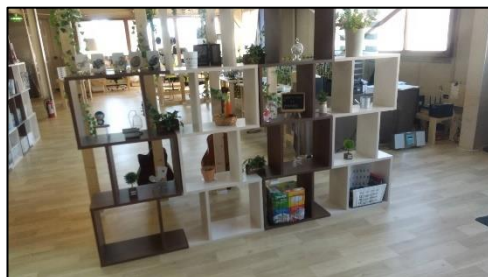
個別ブース

〔様子〕 パソコンが設置してあり、自由に使える。また、絵を描きたい人向けに液タブも用意してある。



本棚

〔様子〕 置いてある本を自由に読むことができる。随時新しい本を増やしている。



トレーニングスペース

〔様子〕 体を動かしたい人が自由に使える。



その他の設備

- ・ギター…自由に引いていいギターが数本ある。職員に教えてもらうことも可能。
- ・カウンタースペース…食事をしたりゆっくりしたいときに利用できる。試しにバーなどをやりたい人が練習する場所としても利用可能。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼっちでんと…空間的に一人になれる場所。何か所かあけることもできるので明るさも調節できる。人の目が気になったり落ち着きたかったりする時の場所。</li> <li>・工房スペース…主に大人の方がプラモデルや裁縫等の制作をするところ。</li> </ul>
<b>事例 (どのような子どもが通っているか)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ではほとんどしゃべらず問題行動ばかりして意思疎通のできない子だったが、施設に来た初日から職員と外に買い物へ出かけられるなど特に問題なく過ごしている。</li> <li>・学校の先生を受け入れられず、最初は施設の職員にも心を閉ざしていたが、施設のイベントを経験して職員と打ち解けた。ほとんど来ていなかった施設にも毎日来るようになり、自分の得意なことを発揮できるようになった。</li> </ul>

令和2年12月21日時点の情報です

## 保護者・教員・学生の方へ

ここからは施設の方に取材をした際に得られた、「不登校の子どもを持つ保護者の方」、「教員の方」、「教員を目指す学生の方」それぞれへの考えや要望をまとめています。



## 「とにかく誰かに相談してほしい」

近年、施設に通う子どもの保護者の方で構成されていた「親の会」のような団体は、あまり作らなくなってきました。その理由の一つに「保護者自身が人との関わりを避けるようになってきている」ことが挙げられるそうです。また、家族の構成もどんどん少人数になり、家族の誰か・外の誰かに悩みを打ち明けることが少なくなっています。そして、相談相手がいないということは、悩みを自分のうちにため込んでしまい、自分にも周りにも悪影響をもたらしてしまうこともあります。

自分の子どもが不登校になると、「保護者が悩む→子どもに悪影響を及ぼす→親子関係の悪化→さらに保護者が悩む」という負のスパイラルに陥ってしまうことがあります。逆に、保護者がある意味で開き直っている状態だと、子どもも自分の進む道を決めることができている場合もあります。まずは保護者の方自身が楽になれるよう、施設も含め誰かに悩みを打ち明け、相談してほしいです。子どものことだけでなく、夫婦関係のこと、親戚関係のこと、仕事関係のこと等、相談の内容はどのようなことでも構いません。不満や不安、疑問などを吐き出して楽になってください。

## 「子どもに会いに来てほしい」

不登校の子どもの中には、自分の学校の校長先生や担任の先生を知らず、高校進学願書を書くときに初めて知る子どももいます。書類上や手続き上教師側がわかっているにもかかわらず子どもまで届いていない場合があります。

子どもに会いに来て、初めのうちは拒否されるかもしれません。忙しくて頻りに来ることは難しいかもしれません。それでも子どもに会いに来て、「キミの先生は私だよ。キミのことをしっかり見ているよ。」と子どもに向けて分かるように発信してほしいと思います。

## 「民間施設との情報交換の機会が欲しい」

「施設があるということを知っている」だけでなく、そこでどのようなことが行われているのか、子どもたちやその場の雰囲気はどのようになっているかなど、施設の中身まで知ってほしいなと思います。

また、施設と学校とで情報交換ができるような場所やイベント、仕組みなどがあれば、より施設と学校とで連携をとっていけるのではないかと考えています。

教員を目指す学生の方へ

## 「地域のことを知ってほしい」

教員の方だけでなく、これから教員になるであろう学生の方にも、施設ではどのようなことをやっているのかということは知ってほしいし、教員になり、不登校の子どもを受け持った際には、可能な限り施設でその子どもにあってほしいと思っています。また、将来的にみなさんが保護者の立場になることもあるでしょう。その時何かに悩み、困ってしまったときは誰かに相談してほしいと思います。

上記のことに加えて、学生の方には釧路のことを、あるいはこれから自分が赴任する土地のことをしっかりと知ってほしいと思っています。「この地域にはどのようなものがあるのか、どのような人たちがいるのか」など、その地の社会的資源やその地に住む人々を活用していくことが必要になってきます。

そのためにも、学生のうちに地域活動に参加するなど、その地域のことをよりもっと知ってほしいなと思います。

## おわりに

本冊子は、作者の卒業研究の一環で作成されたものです。この研究では、事前に教員の方・不登校の子どもを持った経験がある保護者の方から「不登校支援施設について、どのような情報がほしいか」を調査し、それを基に支援施設に取材して、本冊子を作成しています。教員・保護者視点の「より施設の利用につながるために欲しい情報」に加え、施設視点の「保護者・教員・学生に知ってほしいこと、伝えたいこと」を中心にまとめて作成しましたがいかがでしたか？本冊子が不登校支援施設を利用する何かのきっかけとなっただけから幸いです。

改めて、本冊子の作成に当たり取材に協力していただいた支援施設の方々に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

令和3年1月  
北海道教育大学釧路校 地域学校教育専攻  
教育心理学研究室 4年 宮川仁奈



